

母の目に初めて涙見た敗戦

私の一家は金沢市で敗戦を迎えた。小学校2年の私には敗戦の意味は分からなかった。が、8月15日の玉音放送を聞いた母が「日本は負けたのよ」と言って涙しているのは今も鮮明に覚えている。母の涙を見たのは初めてだった。

敗戦は、子供の目にも明らか大きな変化をもたらした。まずひもじさである。食糧不足で栄養失調になり、足がむくみ、ちよっとした傷も膿んで治らず閉口した。石鹸の欠乏、公衆浴場の節約などで不潔になり、多くの人の頭髮や衣服に多量のしらみがたかっていた。学校では、米軍支給のDDTを頭髮や背中に散布された。

毎朝、会釈して登校していた校門の二宮金次郎像が、「非軍国主義化」措置として取り除かれ、占領当局からの指示で、新しい教科書の配布が間に合わなかったためか、上級生譲りの古い教科書の中の軍国主義や愛国主義教育にあ

終戦67年

済んでいない日本人の戦後処理

「問題箇所」をすみ筆で消す作業をさせられた。学校行事等での日の丸の旗掲揚も禁止された。

悲惨な敗戦から20年で、日本は見事、経済復活を果たした。1964年、日本がアジア初の五輪開催国になったことは国際社会の一員として認められた証であった。だが、日本人の多くは、経済繁栄の陰で同邦人に関し3つの重要なことをないがしろにしてきた。

残留邦人帰還と遺骨収集なお

一つは、敗戦で海外に残された同邦人の全員帰還のことである。折々に報道される中国残留孤児の多くは、日本国内に肉親を見つけて帰国を果たした。それでも全員が帰国できたわけではない。残留孤児は他の国にもいる。フィリピン日系人リーガルサポートセンターによると、「今なお身元が判明しない残留2世が800人以上いる」という。北朝鮮にも、拉致被

正論



平和安全保障
研究所理事長
西原 正

害者とは別に敗戦後から残留している日本人が相当いる(あるいはいた)可能性が大きいと思う。

これらの人々は、帰国したくても身元の証明ができなければ帰国できない。自らも高齢であり、日本国内に身寄りがない人も、高齢であろう。政府は非政府組織(NGO)などの協力を得て、一刻も早く帰国を促進すべきでないか。

約半分の約125万柱にしかならないという。残りの約115万柱の未送還遺骨の送還可能性は年を追って困難になっているという。相手国の事情により、収集困難な遺骨も約26万柱になるとい

約半分の約125万柱にしかならないという。残りの約115万柱の未送還遺骨の送還可能性は年を追って困難になっているという。相手国の事情により、収集困難な遺骨も約26万柱になるとい

それよりも、日本人が、連合国に日本の戦争責任を裁かれる一方で、自分たちの指導者の戦争責任を自らで裁くことはして来なかった点に、問題はなかったのだろうか。戦況が日本に不利に展開していく中で、大本営が連戦連勝の二ユースを意図的に流したという当時の指導者の責任を、日本人自身が問わなくてはいいのだろうか。